

---

# 彼女の中の自分

加羅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

彼女の中の自分

### 【コード】

N6602C

### 【作者名】

加羅

### 【あらすじ】

彼女の気ままな独り事です。思っている事や、日常の出来事を語っています。

## 独り言

### 序章

突然、彼女は何かを書きたくなつた。それは、パンパンに膨らんだ風船が破裂するように・・・彼女の中で何かが爆発したのかもしれない。それまで、自分の中にある物を決して見せようとはしなかつたのに・・・そこで彼女は思った。自分は今を何を思っているのだろうか？何を考えているのだろうか？今、一番望んでいる事は何なのだろうか？願っているのは何なのだろうか？

問いかけて見たかつた。自分自身に・・・彼女自身に・・・そして、今までの彼女に・・・

## ひとり

V O L . 1

彼女は一人が好きだ。一人で過ごすことに何の抵抗もない。どこへでも一人で行ってしまおう。

たとえば、映画、食事、買い物、旅行など・・etc 普通女性の場合は気の置けない友人や、仲間、恋人と出かけたりするものだと思うが、そうでもないらしい。

たぶん、そういう女性も沢山いると思う。ただ女性というものは、誰かと一緒に行動するものであって、一人で何処かへ行ったりはしないだろうと、思われているのではないだろうか。

いつからなのか、誰のイメージなのかは分からないが、一般的にそう思われているようだ。

俗にいうおひとり様というものだ。なぜ、おひとり様はイメージがよくないのだろう。

おそらく寂しい感じがするからではないだろうか。さらに、>この人友達いないんじゃない？<とか>恋人出来ないんだろっねえ。>とか<振られたんじゃない？たぶん>というような想像が広がるからだろう。あなたがちその想像は間違っていない。

彼女の場合、友人がいないわけではない。だが一人で行動する方が気が楽なのだ。

自分の好きな時に、好きなように、好きな所へ行ける訳だから・・・こんな楽なことはない。自分の考えで、意思で、行動するのが彼女のモットーである。決して人の意見を聞かない訳ではないが、決めるのは自分自身だと彼女は思っている。

続く

続きを書こうと思うとまとまらないので、思いついた事を思いつくままに書く事にした。

彼女は一人でいる事に抵抗がないと書いた。それはいわゆるイベントとよばれるものについても同じである。これからの季節なら、さしづめクリスマスだろう。

男性にとっても、女性にとっても一大イベントだろう。若いも若きも、そして世の中も、はかった様にクリスマス、クリスマスと大騒ぎになる。特に独身の人々にとっては大問題らしい。

クリスマスに予定がない事は、恥ずべき事の様な扱いになる。なぜ、そうなるのか全くわからない。大体いつからそんなにクリスマスにこだわるようになったのだろう。(クリスマスの本来の意味もよくわからないのに・・・)あまのじゃくと言われればそれまでだが、彼女はそう思っているのだから仕方がない。男性にとっては、はなはだ可愛げがないだろう。

だから、独身なのか？そう、彼女は独身である。「独身です！」などと大きな声でいえる歳ではない。だから、へりくつを言っているんだと思われるかもしれない。へりくつと言えばそうかもしれない。だが、彼女はそういう物に左右されたくないと思っている。

ディーナーやプレゼント、スイートルームがなくても、揺るがない信頼と愛情を持ちたいと思っている。なによりも相手の事を想い、思いやる気持ちを大切にしたいと思っている。

同じ空を見上げ、同じ時間の中で相手を思いやるそんな気持ちを持ちたい。

信頼や愛情、思いやりは形としてとらえられない。お金や、車、家などと違って存在を確認できない。漠然としたとらえどころのないものである。だからこそ、むずかしくあぶなつかしいものなのかもしれない。だが、そのあぶなつかしいものを、心の中で感じるもの

を大切にしたいと思っている。いつかそう思える人に逢えたらいい  
なとも思っている。

最近の彼女の精神状態はあまり良くない。煩雑なせいもあるが、なかなか落ち着くことができないでいる。特に今年はその傾向が強いが、ここ6年ほどこの状態が続いている。

現に彼女は心身医療科に通院している。この6年ぐらいの間は考える事、迷う事、悩む事が多く彼女を疲れさせている。何がそうさせているのだろうか。自分で自分の将来をつかみ取れないことへのもどかしさだろうか。自分で考えて、考えて、決めた事が全て壊れる事への苛立ちだろうか。なぜうまくいかないのだろうか。なぜ壊れてしまうのだろうか。行く手を阻む物があるのか。邪魔する物があるのか。「ある」彼女は確信している。「物」と書いた。だが「者」かもしれない。おそらくその確率の方が高いだろう。その邪魔する者を彼女は許さない。

いかなる理由があろうとも、人をおとしいれるような真似をする「者」を彼女は許すことが出来ない。自分の事しか考えず自分さえよければ良いという考え方、そのためなら人を傷つけ、苦しみ、悲しむような事を平気でする。そのせいでその人自身の人生が、全て闇の中に消える事もある。取り返しのつかない事になるという事にさえも気付かないのだ。ありえない話だ。おそらく読んだ方は嘘だと思われるかもしれない。作り話だろう、と・・・だが、これは現実が起こっている出来事なのだ。彼女もそのためにどれだけ嫌な思いをしてきただろう。はらわたが煮えくり返る思いをしただろう。だが彼女はその敵と断固戦おうと思っている。

愛情を持てる物を探していた。犬、猫、花、音・・・e t c。だが、何かが違うような気がした。

なぜ？なのかはわからない。理由もなく、ただなんとなく・・・。たぶん、心の隙間を埋めてくれる物が欲しかったのだろう。彼女の心の中にぽっかりと穴が開いている気がする。

その穴を埋めるには、いくばくかの時間がかかるだろう。彼女自身も十分にわかつている。

だが、それでも探さずにはいられない。彼女自身の心が何かを探さずにはいられないのだ。

うつろい、彷徨う様な気持ち彼女を駆り立て、焦らすのだ。今、彼女を愛する人はいるだろうか。もし、いるとしたら会ってみたいと思う。そして、その人に愛情を持てるとしたら、彼女はとうするだろう。自分の持てるものすべてを相手にぶつけようとするだろうか。

やれる事をやり尽くそうとするだろうか。・・・それは、おそろしい事だ。相手の人にとってはおしり限りだろう。ただ、自分の心の隙間を埋めるために相手を見つける事はよくないだろう。誰でもいいのか？という事にもなりかねないし、きつと、後で後悔する事になるだろう。自分一人の後悔ならいいが、相手のある後悔はしたくない。そんな事はばかり言っているからいきおくれるのだという意見もあるが、ここではあえて無視する。この虚無感というようのない虚脱感を凌駕する物を見つけないと思っっている。こういうものは時間が解決するのかもしれない。だが、その時間の流れがとても遅く感じる。いつまでとはわからないこの気持ちを抱えてジタバタしている彼女である。

(こういう時に宗教にはまりそうになる気持ちだが、とてもよくわかるこの頃でもある。)



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6602c/>

---

彼女の中の自分

2011年1月11日15時45分発行